

***** 2005.9.21 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付

Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269

Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：1131 万人 (2000 年推計)、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語

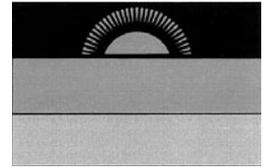
政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ

為替レート：US\$1 = MK 128.72 (9 月 2 日現在)

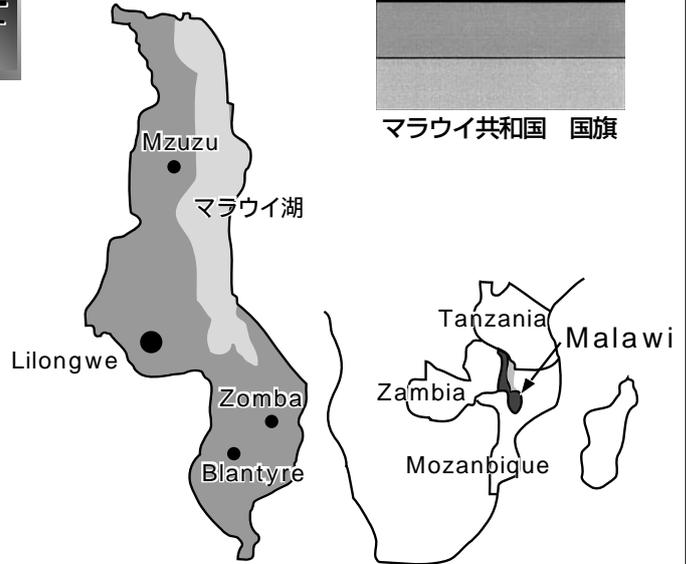
MK 1 = 0.92314 円 (9 月 2 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：271 人 (9 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース

第 23 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 23 回通常総会が 2005 年 5 月 14 日 (土) 15:00 から、東京・渋谷区の JICA (国際協力機構) 広尾大会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 16 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、国際協力フェスティバル参加、マラウイ独立 40 周年記念国情セミナー/シマを食べる会 (懇親会) 開催など、平成 16 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。

第 2 号議案の平成 17 年度事業計画と予算案では、以下を特記事項とし、基本的に前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。

● 当会設立 20 周年記念の継続事業として、ホームページのフォトギャラリーの充実を行う。

● 第 4 回ホームハートプロジェクト申請の受付締切日は 6 月 30 日、9 月 30 日、12 月 31 日を予定する (早期に案件が確定した場合は 9 月 30 日、12 月 31 日の締切は設定しない)。

● JOCA (青年海外協力協会) プロジェクト=マラウイ版国内協力隊創設=への支援を必要に応じ行なう。

第 3 号議案の役員改選に関する件では、下記役員一覧のように提案された。

第 4 号議案の NPO 法人化に関する件では、平成 17 年度中にその可否を検討することが提案された。

第 1~4 号議案は質疑応答の後、議長が一同に諮ったところ満場一致で承認された。

日本マラウイ協会役員一覧

顧問	秋山忠正	日本マラウイ協会前会長
会長	数原孝憲	元アイルランド・ナイジェリア大使、元国際協力事業団理事
専務理事	貝塚光宗	(社) 青年海外協力協会 理事長
理事	池田憲彦	拓殖大学教授
理事	堀添勝身	(財) ユースワーカー能力開発協会 理事長
理事	長沼秀明	(社) アフリカ開発協会 事務局長
理事	稲田武司	元 JICA マラウイ事務所長 (初代)
理事	仲井儀英	元 JICA マラウイ事務所長
理事	保坂 努	神奈川県議会議員
理事	姫野靖征	青年海外協力隊事務局 技術顧問
理事	小松健大	千葉県松戸市役所
理事	山村俊之	(社) 青年海外協力協会 理事
理事	中小原淳	(株) 団建築設計事務所 代表取締役
理事	藤村俊作	青森県立南部工業高校 校長
理事	鶴田伸介	(株) 地域計画連合 代表取締役
理事	吉田 均	磯村豊水機工 (株)
理事	上田秀篤	KDDI (株)
理事	佐藤賢三	シュロニガー・ジャパン (株)
理事	松嶋紀子	埼玉県立熊谷農業高校 非常勤講師
理事	郡昭治	(株) 海外協力
理事	室伏春彦	警視庁
理事	進藤寿則	クリエートラボ代表
理事	河野 進	KDDI (株)
理事	松平隆一	
理事	中川 総	仁和会総合病院
理事	松本 剛	
監事	竹内明久	(社) 青年海外協力協会 理事
監事	江上三喜子	ゆう動物病院



▲ 審議の様子

イベント

国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では 2005 年 7 月 2 日 (土)、JICA 広尾でマラウイ独立 41 周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後 2 時から、駐日マラウイ国大使 Mr. James John Chikago が約 1 時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。



▲ 国情セミナーで講演する Chikago 大使

午後 3 時から、玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Chikago 大使と数原会長が献花した後、元 JICA マラウイ事務所調整員の郡昭治氏より、マラウイ在任中に亡くなった 12 名の隊員の名前が読み上げられ、全員で 1 分間の黙祷を行った。その後、会場を 1 階食堂へ移し「シマを食べる会」を行った。

今回の行事に参加された JOCV (青年海外協力隊) 平成 17 年度 2 次隊候補生の中島晴子さん (幼稚園教諭) の寄稿を下に掲載する。

2005 年 7 月 2 日に行われた、シマを食べる会に初めて参加させていただきました。

実は私は幼稚園教諭として今年の 12 月マラウイに行くことになっている協力隊の候補生です。二次試験が合格したのと同時に、どこの国へ行くのかととてもドキドキしていました…。合格通知には聞いたことのないマラウイという国の名前が…。



▲ 慰霊碑前で

直ぐにインターネットでマラウイを検索!色々調べてマラウイ協会を知ることができました。

前書きが長くなりましたが、マラウイのことが書いてあるホームページには必ずと言っていいほど、シマのことが書いてあったので7月2日にシマを現地に行く前に食べられることができました!!とすごく楽しみにしていました。国情セミナーの後、マラウイで亡くなられた方々への黙祷が終わり、食堂に移動し、シマを食べる会が始まりました。



▲ シマを食べる会で挨拶する Chikago 大使

シマは私の勝手なイメージでお餅のようなもの!?と想像していたのですが、モチリとしたムシパンのような食感で(全く粉っぽくありませんでした!)とても美味しかったです!!一緒に食べる副食のおかずはどれもおいしく、色々な味を試させてもらいました!マラウイに行ったら、マラウイの家庭料理も是非覚えたい!!!なんて欲張りな考えを持ったほど美味しかったです!!そして、今回のシマを食べる会では、お箸を使って美味しく食べさせてもらったのですが、マラウイに行って上手に手で食べられるようになって帰ってきたいなあとも思いました。



▲ シマを食べる会の参加者たち

シマを食べる会には、私が思っていたよりも沢山の皆さんが参加していたことに驚きました。そして、ほとんどの皆さんが私のこれから行くマラウイに隊員として行き、戻られた方ばかりでした。自己紹介もとてもユニークで「〇年度の〇〇隊員(職種)任地、場所」を話すと、あっと言う間に話が盛り上がり、マラウイと言う国の見えない強い繋がりをものすごく感じたのと同時に、自分も、もうすぐその仲間入りができるのだと嬉しくも思いました!

マラウイ協会やシマを食べる会にお邪魔する前まではマラウイと言う国が遠い、遠い国に思え、不安でいっぱいだったのですが、今回、参加させていただき沢山の方のお話を伺うことが出来て、マラウイをとっても近く感じる事が出来ました。二本松での訓練まであと一ヶ月をきりました。不安が無いといったら嘘になりますが、皆さんのお話を聞いて、楽しみな部分が膨らみました。しっかり訓練を受けて任地マラウイにいきたいと考えています。

国情セミナー要旨

- 日時:2005年7月2日(土)14:00~15:00
- 場所:JICA 広尾 2階セミナールーム
- 講師:駐日マラウイ国大使
H. E. Mr. James John Chikago

【講演要旨】

私がこの会に参加するのはこれが4回目であろうと思う。日本マラウイ協会(日マ協会)が独立記念日を思い出させてくれている。いつかはマラウイ大使館が独立記念の会を主催することができ

ると思うが、日マ協会が開催してくれていることに対して感謝申し上げる。

何かあっても途中で帰国することはできないにもかかわらず、青年海外協力隊員としてマラウイに就任する皆様の無私な心と勇気を高く評価し感謝いたします。

皆様の真の大使である。日本国内ではマラウイ大使館はさまざまな調整をする役割を持っているが、資金的制約もあり、どこにでも行けるわけではない。しかし元マラウイ隊員は日本各地におりマラウイ紹介などの大使館の役割を果たしている。一方マラウイに日本大使館は無いが JICA 事務所があり十分な機能を果たしている。協力隊員が大使館の役割を果たしているとも言える。皆様の支援に対して心から感謝申し上げます。

最近のマラウイに関しては特に大きな変化は無い。数原会長のマラウイ訪問(2003年10月~11月)以降では、総選挙があり、前大統領に替って新大統領が就任した。その際、前大統領は仕事を離れて英国で休暇をとり、私が言っていたように、心の整理ができたようであった。その後、インターネットを通じて分かるように、(政治的)問題が生じている。それは組織をめぐるものであり、また文化の問題でもある。しかし政治的な問題はありますが、マラウイという国は引き続き動いていっている。新大統領は United Development Front (UDF) 党の支援で大統領に就任したが、就任後に自分自身の組織に立脚することを目指して新しい会派の設立を宣言した。政治の場は国会であり、国会では各会派の議員数が重要である。このことが国会での問題を引き起こしていると言えるかもしれないが、これは民主主義が成熟しつつあることの表れであろう。自分が米国を訪問した際、歴代の大統領の写真が掲げられているのを見て、マラウイの現状と比べて、かつて米国でもマラウイと同様の問題があったかもしれないの思いを持った。

日本とマラウイの関係では成果があがっている。新大統領が日本を訪問することになるかもしれない。一村一品運動はマラウイの国家事業として日本との5年間の協力が合意された。現地調整員もおり今後は一村一品運動のために、より多くの協力隊員が派遣されることになるのではないかと。オンザジョブトレーニングの対象は、事務所ではなく、汗を流す活動現場である。

幸い、JICA マラウイ事務所の新所長の水谷恭二さんは日マ協会の会員で我々の友人である。加藤前事務所長も良い仕事をしてくれ、今後についても私は楽しみにしている。水谷さんは森林の専門家でもある。なおマラウイを兼轄するザンビア大使館でも石大使から宮下大使への交替があった。

マラウイの北部では、青年海外協力協会(JOCA)が農民支援事業を実施している。この種の協力の最初の NGO として、実習や簿記などの諸活動を行い、一村一品運動を支援することにもなる。

マラウイの現状における深刻な問題として食糧不足があげられる。マラウイでは灌漑が未整備なため、水があるのに水が足りないというパラドックスがある。その結果、南アフリカから食糧を輸入している。また灌漑のためにポンプを無料で配布している。したがって飢餓は今後緩和されよう。ただしマラウイではトウモロコシのシマが無ければ他の食糧があっても食べるものが無いということになる。こうした文化も変えないといけな

私は在日大使として4年になるが、南アフリカに駐在した時、私はそれが自分の外交官としての最後の勤務とっており日本に来るとは思っていなかった。しかし日本での活動を通じて2冊の本(Crossing Cultural Frontiers - Analysis and Solutions to Poverty Reduction: Japanese Parallels と Faith Based Diplomacy- The Challenge to Development)を書くことになった。私は、マラウイに帰国したら、マラウイ湖の魚のすしを料理することは難しいとしても、「在マラウイ日本大使」のようになって日本を紹介したい。

質問:日本での一番良い思い出は何ですか。日本では何か所を訪問しましたか。

大使:日本は巨大なオープン大学だ。他国には無いものを日本では見出すことができる。私は日本の豊かな文化をマラウイに伝えたい。幸い私の書いた「Crossing Cultural Frontiers - Analysis and Solutions to Poverty Reduction: Japanese Parallels」は農村の子供たちに読まれるように漫画化されつつある。日本人は個人主義的でなく、グループへの所属意識が強い。一方今のマラウイは協調性が欠けているように思う。

山形のカタツムリ料理はおいしかった。宮城では糞尿から有機肥料を作って販売までしていることを学んだ。牛タンもおいしかった。新潟の高地では下方の川から用水をポンプアップして農業を営んでいた。埼玉でも糞尿で肥料を作っていた。マラウイ人は肥料が無いと言わないでこういう方法を学ぶべきであろう。北海道では植林をしていた。マラウイでは砂漠化防止のために NPO が植林を奨励しても5年もすればすべての木が切られるようなこともある。植林と有機肥料作りを組み合わせることもできよう。日本では米から酒、帽子、アイスクリームなどなどさまざまな物を作るが、マラウイではトウモロコシからはシマを作る以外に多くのものは作らない。私には日本で学んだこれらのすべてのことをマラウイで話す責務がある。

質問:マラウイの近年の観光の進展はどうですか。

観光担当書記官 Mr.Karonga:マラウイでは伝統的な観光に替えてエコツーリズムの振興に努めている。大多数の国民が住む農村地域を対象にし、観光の重要性などにつき人々を教育・啓蒙しつつある。今後その成果が見られるであろう。なおエコツーリズムの焦点は農村部にあり、環境を悪化しないことを意図している。例えば環境を保全しつつ地場の原材料を活用することなどが考えられる。

大使:大統領はエコツーリズムの要素のある大分の湯布院を訪問し屋内の温泉を楽しんだ。マラウイの Nkhotakota 地区にも温泉があるので環境を保全しながら振興するとよからう。

質問:マラウイに帰国したら、まずしたいことは何ですか。

大使:自分自身は小規模な新聞または雑誌を始めたい。そのため日本の特派員役を求めている。記事は政治的なことではない。将来のために書きたい。例えば毎週金曜日に発行する。対象は大学生などだ。

大使夫人:小さな幼稚園を始めたい。

質問:エイズの患者数の動向はどうですか。

大使：エイズ患者数の割合は20%から14%に減少したもののエイズは引き続き深刻な問題だ。ただし南アフリカやボツワナよりは良い。国が対外的に開放的になるほどエイズが蔓延する可能性が高まると言われているが、マラウイにはブルンディやルワンダからの人口流入があり、逃れるわけにはいかない。また文化の問題もある。例えば兄弟が亡くなったら故人の夫人と結婚する場合もある。悲惨なことであるが、エイズ患者が亡くなることで患者数が減少

している面もある。いずれにしても子供も含みエイズは深刻な問題である。先日、小泉首相はエイズ、マラリア、ポリオなどのためにいっそう努力すると発言していた。私は小泉首相の発言を歓迎し支援したい。

大使発言：私は「Crossing Cultural Frontiers Analysis and Solutions to Poverty Reduction : Japanese Parallels」で文化の問題を論じた。また「Faith Based Diplomacy - The

Challenge to Development」ではどんな人も自分と同様だということを強調した。第7章では日本について論じている。私はクリスチャンであるが仏教徒でも良い。重要なのはFaithである。ひとつは神に対するFaithである。神は宗教を知らない。すなわち重要なのは宗教でなく神である。もうひとつは人に対するFaithである。国は異なっても相互理解はできる。

レポート 第3回マラウイ ウォームハートプロジェクト完了報告

- **プロジェクト名**：図書館蔵書数増加計画
- **プロジェクト場所**：Chimwalira Secondary School 図書館
- **プロジェクト概要**：当学校の図書館に様々な種類の図書を購入し、生徒が読書をする機会を増やす。様々な図書を読みまたは見ることによって、読書の楽しさを更に感じ、また、知識の蓄積、思考力や想像力の発達を促し、日頃の勉学の助けとし学力向上に繋げる。

経過報告

2004.6.20	JICA マラウイ事務所を通じてプロジェクト申請 申請前に学校において読書に関するアンケートを生徒及び教師に対して行った。当アンケート結果と司書担当教師との協議の結果、申請内容としての購入希望図書を決定した。(全118冊、内訳：辞書・図鑑21冊、文学51冊、教科書46冊)
2004.7.23	日本マラウイ協会による申請の承認
2004.7.30	同協会からプロジェクト費用の送金
2004.8.14	インターネットによる図書の注文 図書によっては、インターネットによる購入のほうが安価であるため、図書購入サイト(Amazon.com)により42冊の辞書、図鑑や文学等の図書の注文を行った。現地で購入できる図書に関しては、購入に時間を要しないと考え、インターネット購入図書を受取り次第、注文し購入することを決めた。後日、当サイトから「在庫がなく、取り寄せるために時間がかかる、また、いくつかの図書は取り寄せられる見込みがなく、購入出来ない」と回答があった。10月に入り、同サイトから「11月に輸送出来る見込みが立った」と連絡があった。
2004.12	図書の受取り JICA マラウイ事務所宛に Amazon.com で注文した図書が届いた。図書は日本の流通所を経て、どういふわけか、スエーデンを経てマラウイで到着したため、輸送に長期の時間を要した。 現地本屋への図書の注文 リロングウェにある MANENO BOOKSHOP において 77 冊の教科書やアフリカ文学等の図書の注文を行った。実際の購入は、翌年1月になる旨を伝え、注文した図書は全て在庫があることを確認した。
2005.1.18	図書の購入1 前記本屋において図書を購入した。しかし、注文していた図書の大半が在庫がなく、あるものだけを購入し、残りは、3月に行われる出張販売(学校近隣)で購入することになった。 図書の搬送 東南部教育事務所の車両によりリロングウェからナサワ(チムワリーラセカンダリースクール)へ図書の搬送を行った。学校へ搬送後、図書リストを作成し、図書にはウォームハートプロジェクトにより購入した旨のシールを貼り、学校のスタンプを押し、蔵書するための準備を行った。
2005.1.24	学校へ図書を寄贈1 月曜日朝の定例会において、図書の寄贈式を行った。寄贈式では、日本マラウイ協会及びウォームハートプロジェクトについて説明し、本を読み学んで欲しいと話をした。

2005.1.24	寄贈式後、図書館に収め、生徒への貸出しを始めた。生徒達は、挙って図書を手に取り見て、喜びの声を上げていた。語学担当教師から、英文学の図書があるので来年は英文学の科目を増やす予定している、大変感謝していると教師からも喜びの声を聞いた。
2005.3.2	図書の購入2 前記本屋(MANENO BOOKSHOP)が学校の近隣で出張販売を行ったため、残りの図書を購入した。また、インターネットで購入予定の図書で購入不可能だったものがあり、図書購入費に余裕があったため、学校で必要な図書を選び購入した。 学校へ図書を寄贈2 学校へ搬送後、前記と同様に蔵書するための準備を行い、図書館へ収めた。今回は寄贈式を行わなかったが、生徒へ新たな図書が寄贈されたことを周知し、貸出しが始まった。最終的に購入し寄贈した図書総数112冊となった。(内訳：辞書・図鑑19冊、文学41冊、教科書52冊)
2005.3.11	アンケート実施 生徒に対しアンケートを行った。結果、回答者のほとんどが当プロジェクトで購入した図書を借り、勉強や生活に役立っていると回答していた。しかし、借りている本の大半が教科書で、教科書以外ではマザーテレサやトーマスエディソンといった伝記、アフリカ文学といった結果だった。特に国家試験を控えた2年生及び4年生は勉強するために教科書を借りることが先決であることが見られた。また、他学年についても、やはり教科書の貸出しが中心のようだった。しかし、生徒が図鑑を読んでいたり持って帰ったりしている場面を幾度か見かけているため、アンケートと同時に、図書館の貸出し簿で実際の貸出し状況を確認した。貸出し簿からも、教科書の貸出しが大半である結果を得たが、生徒は小説などの文学よりも図鑑に興味を持ち、借出しているようだった。また、どの学年にも言えることは、以前は図書館を利用しなかった生徒が、図書寄贈後、それら多くの生徒も図書を借りるようになったように感じられた。

▶ 寄贈式後、図書館の前に



▶ 本を見て喜ぶ生徒達



予算収支

《収入》	日本マラウイ協会から 185,860円(1,659.17USドル)
《支出》	図書購入費及び事務費 142,004円
《余剰金》	43,856円

なお、余剰金については、帰国後、日本マラウイ協会へ返還した。

プロジェクトの効果及び今後の予定

図書を購入し図書館の蔵書数を増やした目的は、一つは生徒が図書を借り読書する機会を増やし、読書に興味や面白みを持たせることであったが、そのために購入した文学については、今はまだ借出し頻度が低く、大きな効果は見られ

ていない。しかし、本を読んで詩を作ったという声も聞き、文学に対する興味も将来的には期待できると感じた。

また、第2の目的として、知識の蓄積、思考力や想像力の発達を促し、日ごろの勉学の助けとなり学力向上に繋げるとしていた。これに対し、文学を読むことからの効果ではなく、教科書や図鑑を見て学ぶことでその効果が上がることを期待できる。

プロジェクト計画当初、生徒に出来るだけ多くの文学に接してほしいと願い、購入希望図書の約4割を文学としたが、結果的、生徒が求めている図書は教科書であった。しかし、参考書的な要素があり読みもの・見るものとして面白みのある図鑑には興味があり借出し頻度も高い

ため、知識の蓄積や学習の助けになる可能性を秘めている。また、文学に関しても、マザーテレサやヘレンケラーといった伝記は何名もの生徒が読み、感想を言いに職員室まで来たケースもあり、実際にあった話などは生徒の興味を引き、そこから文学の世界に入り込むことを期待したい。

なお、今後の予定として、文学図書や図鑑の借出し頻度の割合が低いいため、司書担当教師に文学図書の貸出しを積極的に行うように促す。また、帰国後、後任隊員が配属されることもあるので、日本紹介の英語図書を海外に贈るNGO(日本ビジョンの会)に依頼し、蔵書を増やすことで当プロジェクトをフォローアップしていきたいと考えている。

■ 申請者謝辞

プロジェクト申請及び実行にあたり、御協力下さった JICA マラウイ事務所の方々には御礼申し上げます。

また、マラウイウォームハートプロジェクトを運営し、今回の申請を承諾して下さいました日本マラウイ協会の皆様におかれましては心より感謝申し上げます。チムワリーラセカンダリースクールの教師及び生徒、並びにその P.T.A. からも、生徒の学習に役立つ非常に有用なプロジェクトで、図書を寄贈下さったことは学校としても名誉なこと、お礼を申し上げますと感謝の気持ちをいただいております。当プロジェクトは、計画の日程通りには進むことが出来ず、当初期待していた効果とは少し異なりますが、生徒の勉学に役立っているという効果を見ることができ、理数科教師隊員としての活動も充実して終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

レポート

第 4 回 マラウイ
ウォームハートプロジェクト審査

日本マラウイ協会では、マラウイ国内の地域発展と改善のために必要な草の根レベルでの協力活動で、資金不足であるが協力隊員の隊員支援経費を活用できないものを支援することを目的に、隊員からの要請に基づいて直接的な資金援助を行っている。

当プロジェクトの第 4 回目として、平成 15 年度 2 次隊 山田耕平隊員 (村落開発普及員) = 共同申請者: 平成 15 年度 3 次隊 治久丸愛隊員 (看護師) = から 2005 年 6 月 26 日付で「子供たちへ水を！～手押しポンプ型井戸建設プロジェクト」の申請があった。

当会では同年 7 月 24 日に理事会を開催し、合議審査の結果、申請案件を適正と認め、数原会長へ決裁を上申した。申請金額は 289,686 円。8 月 30 日に数原会長の決裁を得て、9 月 2 日に送金した。以下はプロジェクト申請書の概要である。

プロジェクト名

子供たちに水を！～手押しポンプ型井戸建設プロジェクト

プロジェクト場所

Mkungwe Full Primary School

プロジェクト概要

マウエンベ村にあるムクングウェ・フル・プライマリー・スクールは、教員 6 名、生徒 118 人の小さな学校である。8 学年あるが、4 教室しかなく、そのうち 2 教室がすでに老朽化し、崩れかかっている。そのため、1 年生から 4 年生は、外の木の下での授業となっている。乾季はいいが、雨季は、雨のため授業ができないことや、低学年の生徒が高学年の勉強しているクラスに避難してくるため、高学年の授業の妨げになることが多々ある。また、教員住宅も不足しており、校長以外は、遠くから通っている。

このように問題が多々ある恵まれない環境の中で、最もプライオリティーの高い問題は、水である。学校に水がないために、多数の問題を引き起こしている。

1. トイレの後に手を洗うことができず、非常に不衛生である。
2. 最寄りの井戸が遠いため、喉が渇いたときに水が飲めず、その辺にある水溜りの水を飲む生徒がいる。これらは、下痢などの原因となっている。

3. 授業の休憩時間を使って、生徒たちは水を飲みに行くのであるが、授業開始の時間になっても、帰ってこられない生徒が多く、授業時間を相当無駄にしている。また、井戸では、村人達が使っている時は、大人の仕事が優先であり、生徒たちは待たなくてはならないことも原因のひとつである。

4. 水を飲みに行くと言って、嘘をつき、授業をさぼる生徒がいる。これらの問題は、学校に井戸が建設されることにより改善されることが期待される。しかし、それだけでは、健康・衛生の根本的な問題解決にはならないため、生徒や村人を対象に公衆衛生に関する啓蒙の講習を、共同申請者である治久丸隊員と共に予定である。

これらの理由により、手押しポンプ型井戸建設費用について、マラウイ・ウォームハート・プロジェクトとして申請したい。(当プロジェクトの進捗状況については別途また紹介する。)

《日本マラウイ協会》

平成 17 年 3 月～平成 17 年 8 月活動内容

- (1) 【3月23日】 機関誌 KWACHA 第 33 号発行
- (2) 【5月14日】 第 23 回通常総会開催
(1 面の記事参照)
- (3) 【7月 3 日】 国情セミナー・シマを食べる会開催
(1～3 面の記事参照)
- (4) 【7月24日】 ウォームハートプロジェクト審査
(4 面の記事参照)



日本マラウイ協会情報



■ 「グローバルフェスタ 2005」、JICA ボランティアフェスタ」出展協力者募集

毎年恒例の国際協力フェスティバルは、今年から「グローバルフェスタ」に名称を変え、来る 10 月 1・2 日(土・日)に東京・日比谷公園で開催されます。また、今年は青年海外協力隊が発足して 40 周年に当たり、これを記念して 10 月 29・30 日(土・日)に東京・代々木公園で「JICA ボランティアフェスタ」が開催されます。

日本マラウイ協会は両方のイベントに出展し、マラウイの紹介や民芸品の販売などを計画しています。当日のスタッフを募集していますので、お手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mail へご連絡をお願いします。

■ KWACHA バックナンバー

当会は今年 2 月 26 日に創立 22 周年を迎えましたが、創立時の機関紙 KWACHA 第 1 号から第 34 号(今号)までの全バックナンバーを PDF ファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧下さい。

URL : <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェフ語辞典 統合改訂版 (2000 年 7 月発行)
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円 (送料 290 円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版(97 年 7 月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」 B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円 (送料 210 円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版 (94 年 7 月発行) A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円 (送料 210 円)

送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を 1 冊づつご注文の場合は次のとおりです。

- (1)+(2) = 340 円 ■ (2)+(3) = 290 円
- (1)+(3) = 340 円 ■ (1)+(2)+(3) = 340 円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx

xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご連絡ください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第 3 水曜日 18:30 ～に、東京都内(通常は JICA 広尾 1F 研修室 2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24
青年海外協力協会気付
日本マラウイ協会
TEL: 03-3447-2921
FAX: 03-5798-4269
E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

UFJ 銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739
口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗
郵便振替 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。